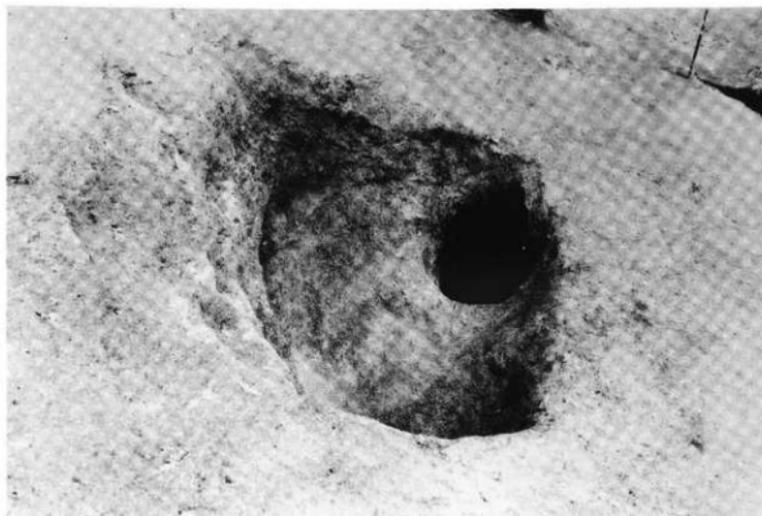




(1) E-8区 4号墓 (南から)



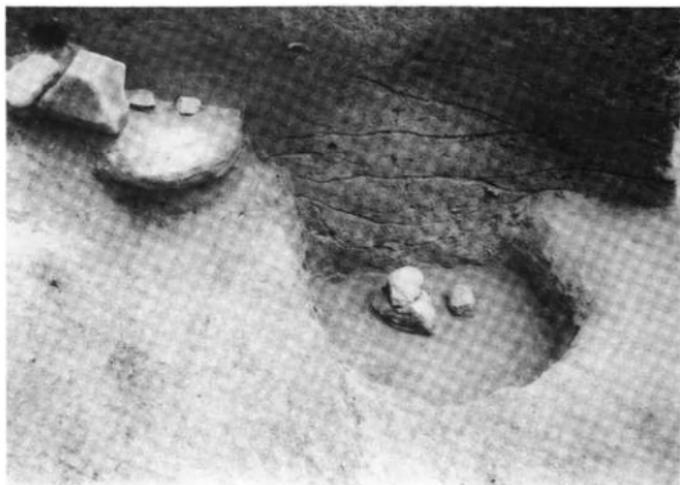
(2) 同上 壘破片除去後、掘り方 (南東から)



(1) E-8区 3号墓 (西から)



(2) 同上 (北から)



(1) E-6区 7号墓 (西から)



(2) 同上 (北から)



(1) E-6区 9号墓 (南から)



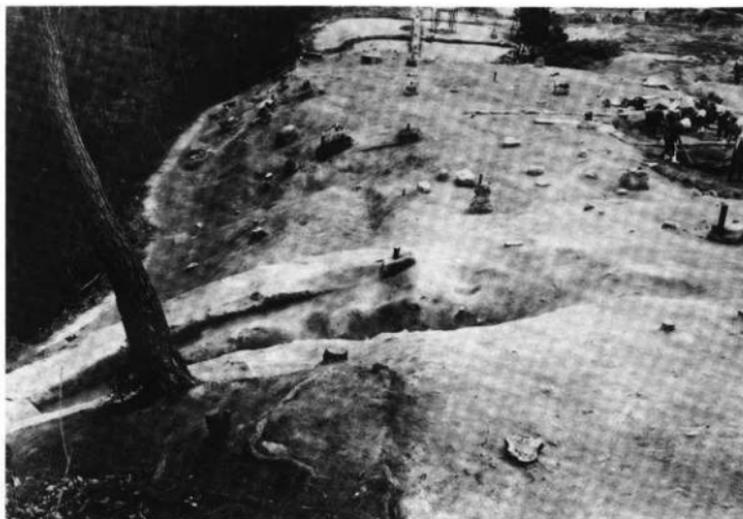
(2) E-6区 8号墓 (南から)



(1) E-10区 1号墓(東から)



(2) 同上 石、雑器除去後(東から)



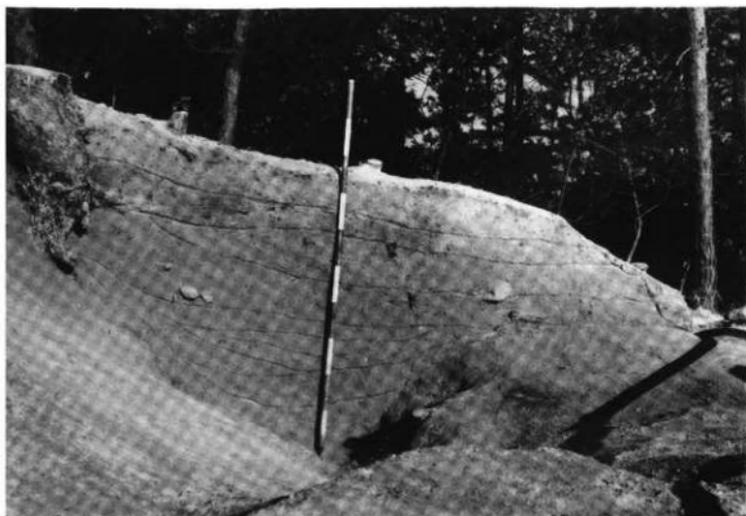
(1) B-8, C-8区 溝状遺構 (西から)



(2) 同上 (東から)



(1) B-8, C-8区, 溝状遺構(南から)



(2) 同上 埋土堆積状況(南から)



(1) E-8, D-9区 石散乱状況(南から)



(2) E-7区 調査風景(北から)



(1) E-8区 五輪塔出土状況(南から)



(2) 同上



(1) E-8区 五輪塔出土状況 (南から)



(2) 同上 (南東から)



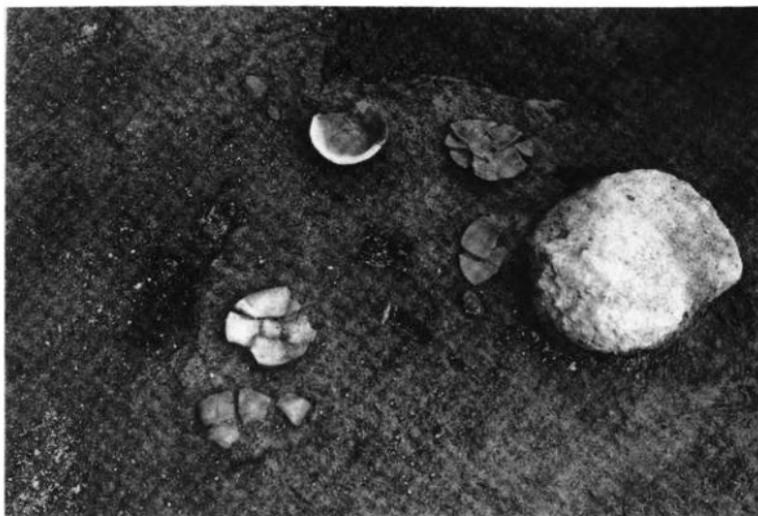
(1) E-8区 4号墓, 五輪塔出土状況(東から)



(2) 同上(南から)



(1) C-9区 土師質土器出土状況(北から)



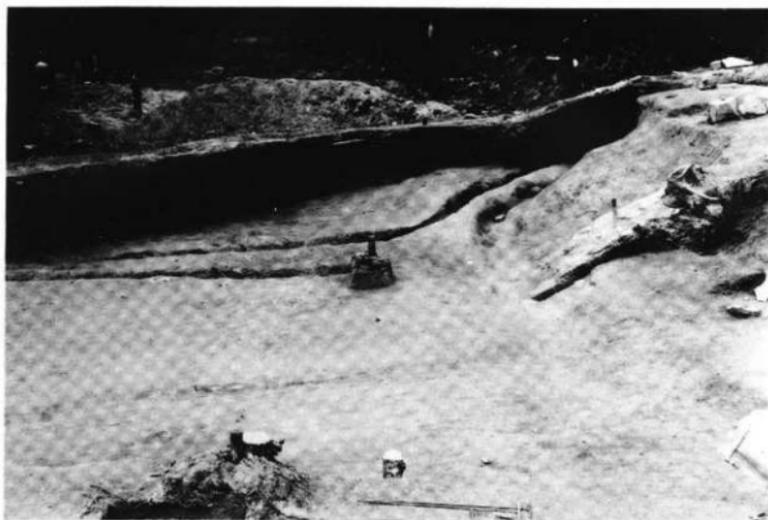
(2) 同上(西から)



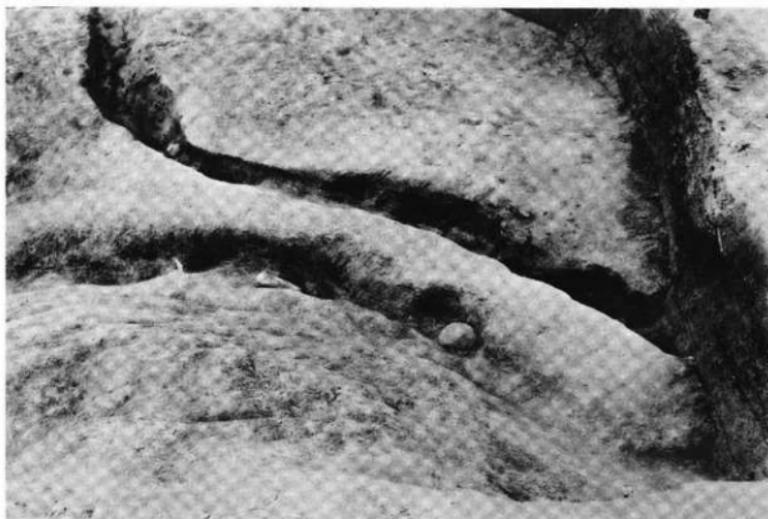
(1) C-8区 亀山焼出土状況(東から)



(2) C-9区 有溝土鯉出土状況(西から)



(1) E-7・8, F-7・8区 溝状遺構 (東から)



(2) E-7区 溝状遺構 (北から)



(1) E-7区 南壁層序



(2) F-7区 土層剝除去後(北から)



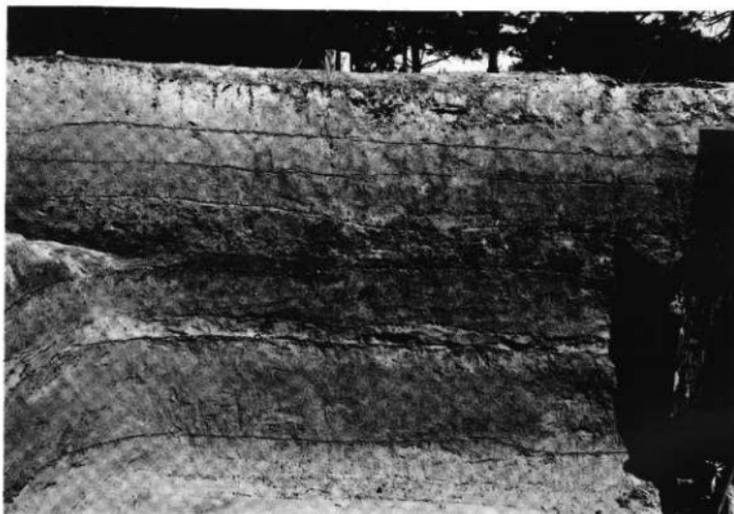
(1) D-9, E-8区 発掘風景(西から)



(2) D-9, E-8区 五輪塔石除去後(北東から)



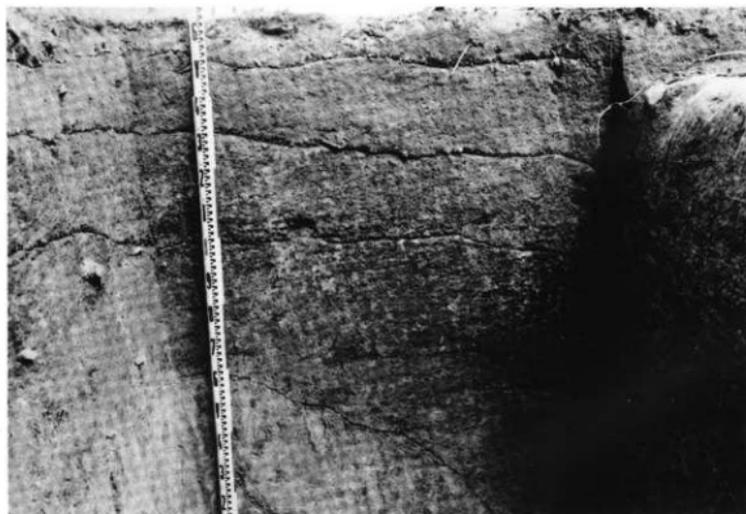
(1) 凹地 (F, G-11区) 発掘風景 (西から)



(2) 同上 東壁層序



(1) G-1～6区 発掘全景 (西から)



(2) G-2区 東壁層序



1



7



13



2



8



14



3



9



15



4



10



16



5



11



17



6

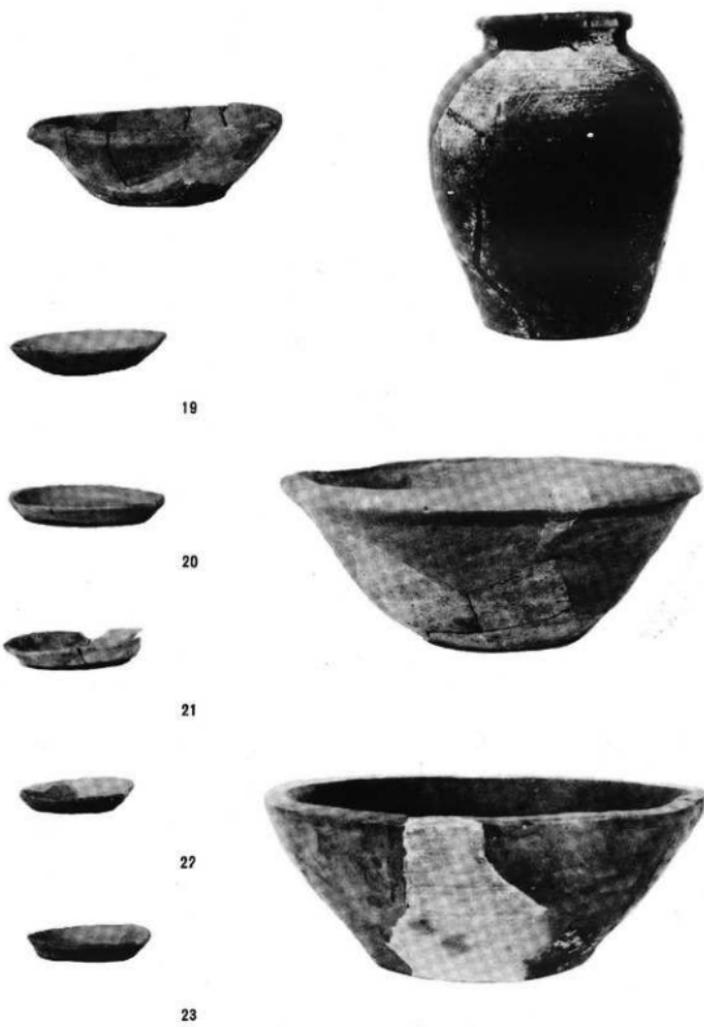


12



18

土師質土器



土師質土器・陶器



空·風-1



空·風-2



空·風-3



空·風-4



空·風-5



空·風-6



空·風-7



空·風-8



空·風-9



空·風-10



空·風-11



空·風-12



空·風-13



空·風-14



空·風-15

五輪塔 (空·風輪)



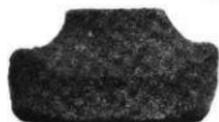
火-1



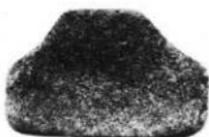
火-2



火-3



火-4



火-5



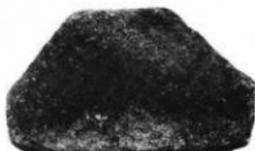
火-6



火-7



火-8



火-9



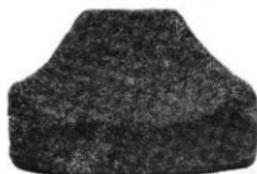
火-10



火-11



火-12



火-13



火-14



火-15

五輪塔（火輪）



水-1



水-2



水-3



水-4



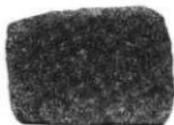
水-5



水-6



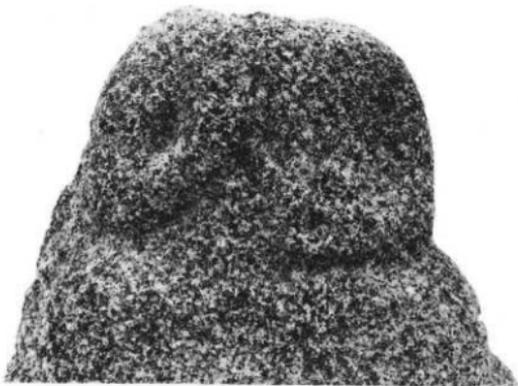
水-7



地-1



地-2



五輪塔（水・地輪）・石仏

V 北 浦 遺 跡

## 例 言

1. 本報告は、1979年11月13日から同年12月24日まで実施された、坂出市檀石島に所在する北浦遺跡<sup>きたうらいせき</sup>の発掘調査概報である。
2. 発掘調査は、文化行政課技師大山真充、囑託大砂古直生・町川義晃が担当し、坂口淳子が補助した。
3. 調査に際しては、檀石島瀬戸大橋対策協議会・同自治会から多大の協力を受けた。記して謝意を表したい。
4. 本報告の執筆は町川が行い、編集は町川の協力を得て大山が行った。

## 目 次

I	はじめに	157
II	土層と遺物出土状況	160
III	出土遺物	161
IV	結 び	164

## 挿 図 目 次

第1図 榎石島地形図……………	157	第3図 北浦遺跡区画配置図……………	159
第2図 北浦遺跡周辺地形図……………	158	第4図 北浦遺跡出土遺物実測図……………	163

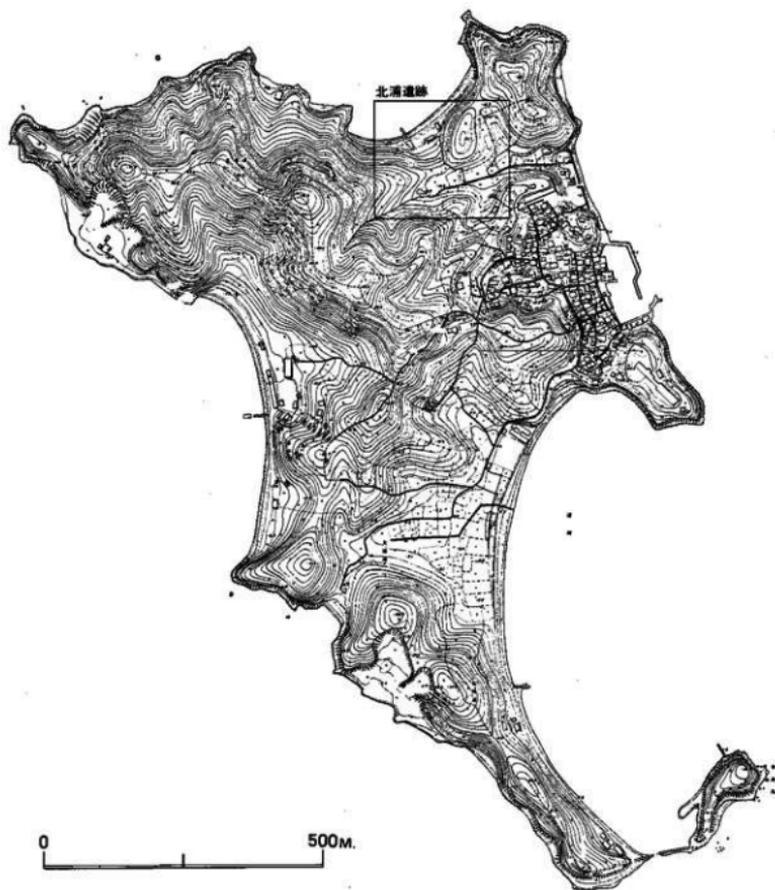
## 表 目 次

第1表 北浦遺跡各調査区出土遺物一覧表……………	162
--------------------------	-----

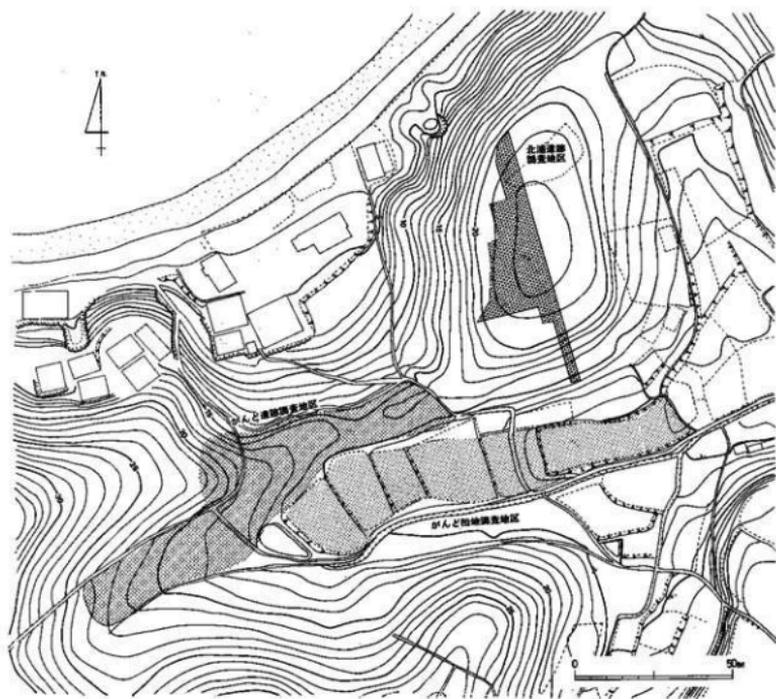
## 図 版 目 次

図版1 d-2423区遺物出土状態図	図版7 (1) h-25遺物出土状態
図版2 h-25区遺物出土状態図	(2) 南壁土層
図版3 j-26区遺物出土状態図	(3) 調査終了
図版4 k(1)-26区遺物出土状態図	図版8 (1) k(1)-26遺物出土状態
図版5 (1) 調査前状況(南より)	(2) 東壁土層
(2) 同上(北より)	(3) 調査終了
(3) 発掘風景	図版9 (1) 出土遺物
図版6 (1) e-26東壁	(2) 同上(裏面)
(2) i-26東壁	
(3) e-24南壁	

はじめに



第1図 榎石島地形図



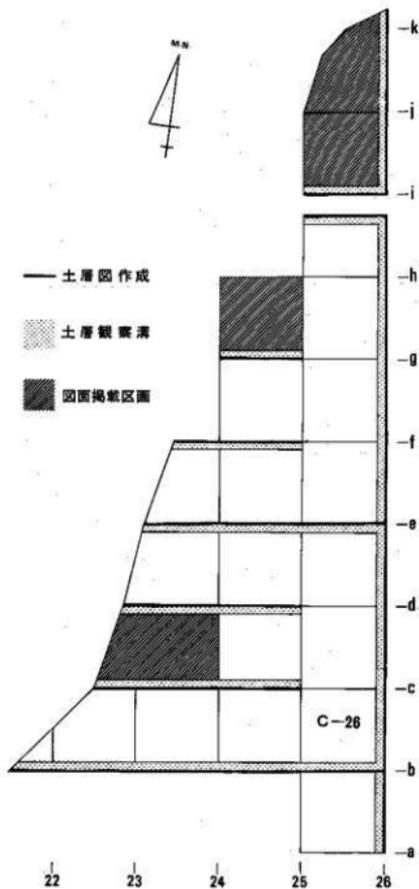
第 2 図 北清遺跡周辺地形図

多くの島々によって形成されている、備讃瀬戸域は架橋の島として日々を過ごしている。その中に、角ばった「P」字形を表現する島が横石である。横石島は基盤である花崗岩の風化作用などで、島の数ヶ所に大、小の砂浜が見られる。今回調査を行う北浦道跡は島の北東端部に位置し、標高25m前後の台地状を呈する低丘陵である。ここからは、北岸に下津井港、鷺羽山—西方に水島灘の景観が望める。また、周辺の遺跡については、東側に連なる尾根にトビノス遺跡があり、西方方向には現在も調査が継続されているがんど遺跡・花見山地区ホウロク岩が存在する。

調査期間は、昭和55年11月13日から12月24日まで行なわれ、面積252㎡を発掘した。これは丘陵の西半に相当する。調査区設定に当っては、がんど遺跡の調査に際して使用されたポイント名称を延長し、一区画6×6mとして設定した。各区画名は南北列と東西列の交点、北東隅ポイントを用いる。また、本調査に先立って、昭和51年に予備調査<sup>(1)</sup>が行なわれサスカイト、チャート片が検出されている。

尚、予備調査の時点で「北浦通り」と記載されていたが、本調査の結果、出土遺物等の状況から判断して本報告より「北浦道跡」と、改称する。

註 1 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財予備調査報告』(I)1976



第3図 北浦道跡区画配置図

## Ⅱ 土層と遺物出土状況

### 1 土層

地形状態からも判断できるように不自然な台地状を呈する状況は、畑地化に伴うものである。その為、地山直上付近まで既に攪乱が及んでおり、層位は基本的に①表土、②耕作土、③地山と言ったように単純である。その中で、②③層間に花崗岩風化色、つまり褐色の3つの層が確認できる。それらは、地山ブロック・硬質・軟質・汚で分層が可能である。

調査区全域の堆積状態は、東側部で単純な形成層が見られ、西側部では花崗岩の粗粒を多量に含有する層が確認できる。その状態は地形からも推測可能なように、中央部は浅く、西部分の傾斜地に移行する程厚く堆積している。これらの状況は、予備調査で判明しているように当地の開墾時における畑地化の状態を如実に示すものである。しかし、調査区北端部に設定されたk(1)-26区は、①②層は同一であるがその下層から他と比較して硬質な層が確認された。

### 2 各区遺物出土状況

#### d-24(23)(図版1)

最も西裾部近くに設定された不定形の区画であり24・23にまたがる。出土遺物はサヌカイト片を含め中、近世～現代までのものが上下関係なく混在している。その中で図示するものは、不明石製品である。それらは全て耕作土からの出土であり、状態も斜面ラインに沿っている他、何ら特徴が見られなく、やはり耕作時に西側に引き寄せられた現象である。

#### h-25 (図版2, 7)

調査区中央より北側裾部に位置する区画である。出土遺物は西側裾部に設定された中で最多量の遺物が検出された。その状態は北西部分に散在的ではあるが集まる傾向がある。この方向は傾斜西端部に向かっている。

#### j-26 (図版3)

北端部分に2ヶ所設定された内の南側区画である。出土遺物は石鏡2点を数える他チャート、サヌカイト片が分散する状態で出土する。それは区画中央に見られる。

#### k(1)-26 (図版4, 8)

調査区の最北端に設けられた区画であり地形の制約上、不定形な設定になった。出土遺物は絶対的に同一状況を示すが、その出土量は他区と比較して圧倒的に多い。しかし、内容は多量のサヌカイト片に比較して石器はナイフ形石器2、削器1と比率的には少ない。出土状態は全体に北部分に多く、それはごく部分的ではあるが濃、淡が見られる。そのような状況を土層から判断すれば、①②層を除く他層は若干、硬質であるが基本的には同一層であるという点から、当区もやはり平坦地を形成する為の痕跡であろう。

## Ⅲ 出土遺物

調査区全域からの出土は全体に希薄であり、旧石器を始め中・近世～現代陶(磁)器などが混在した状態で検出された。それらは散在的に出土するが大半は斜面部にかかる裾部と北端の区域からである。ここでは、ナイフ形石器、削器、石鏃、不明石製品について説明を加える。

### ナイフ形石器 (第4図1～5)

①、不鮮明であるが腹面にポジティブな剝離が認められ、打点の方向が判断できる。背部加工は腹面側からによるものである。翼状剝片を素材とし、底面は新しい剝離により欠損するが、わずかに存在する。断面はごくわずかに見られる底面より、一辺が極端に短い台形状を呈する。両端部は折れているが古い。

②、背部加工は、全て腹面側からおこなわれている。横長剝片を素材とする。

③、横長剝片を素材とし、背部加工は腹面側より施し先端部まで及ぶ。全体に風化が著しいが深く剝離された部分は剝離痕が強く残る面もある。

④、整形剝離は、打面側の全側縁及び、その反対側にまで見られる。先端部分はやや丸くなる。それは、基部加工であると考えられる。

⑤、全体的に風化が進み鮮明さを欠くが、横長剝片を素材としていることがわかる。

### 削器 (6・7)

⑥、側辺は、主要剝離面と背面からの深い角度での剝離を施す。それは、両側辺の端部にまで及ぶが、先端部と側辺部を意識している。加撃点のポジティブな痕跡は、背面の右側縁からの剝離によって除かれている。

下方側辺部の剝離が対応する先端部より広い範囲にみられるが、削器の項目に入れる。しかし、先端部に剝離が存在する点からドリルの可能性も大であるが、両機能的な行為を具備するものであるかもしれない。

⑦、背面側から主要剝離面に向かって、やや浅い角度で6回の剝離を施し刃部を作り出している。また、先端部は検出時の新しい割れ口が見られるが、刃部は先端部まで及ぶであろう。素材は平薄な縦長剝片である。

### 石鏃 (8～12)

⑧、剝離面のリングが磨滅する程、ローリングを受けており不明瞭である。袂は浅く、厚さは全体的に薄い。長さ25cm、幅1.7cm、重さ1.2gである。

⑨、⑩ 風化が進み剝離痕と石理の判断に確実さを欠く。⑩は脚部が若干、広がるかもしれない。⑨長さ1.8cm、幅1.3cm、重さ0.5gである。

⑪、周縁部はやや大きい剝離を施し、袂は4回の調整剝離痕が認められる。脚端部は丸味を帯び、片側は欠損している。左右対象で、断面は扁平な六角形を呈する。長さ2.5cm、幅2cm、重さ2.5gである。

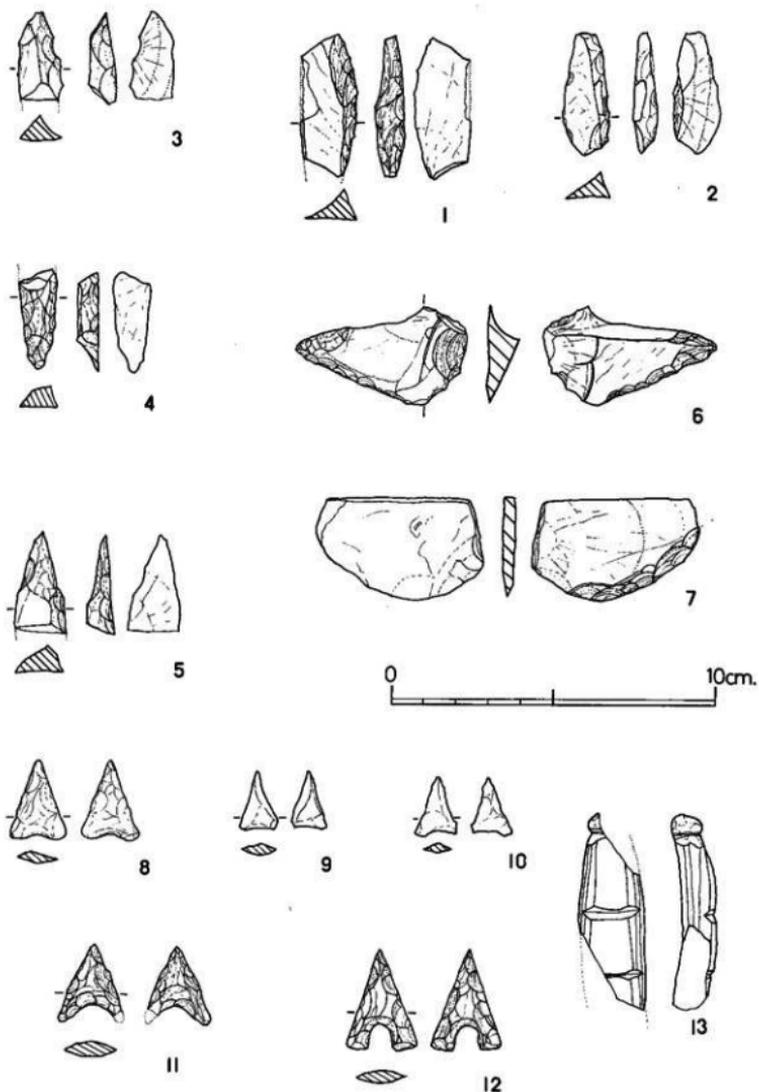
⑫、両側辺部は直線的に延び、先端を鋭く尖らせている。袂は「U」字状を呈し石鏃長に対して約1/4位の深さがある。両面共、やや大まかな剝離がみられ数ヶ所に階段状剝離が認められる。断面はレンズ状を示す。長さ3.2cm、幅2.2cm、重さ1.7gである。

不明石製品 (13)

⑬、左図は表面と考えられる。表面に2本の沈線が走り、先端部はくびれたのち丸味を帯びる。残存良好な個所に9つの面が観察できる。側面観は緩やかな曲線を描く。現存幅2cmを計り、色調は乳灰色を示し、滑石製である。

第1表 北浦遺跡各調査区出土遺物一覧表

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
23			削器	不明石製								
24				ナイフ形石器								
25						ナイフ形石器	ナイフ形石器	石鏃(2)				
26							ナイフ形石器			石鏃(2)	ナイフ形石器(2)	削器



第4圖 北浦遺跡出土遺物実測圖

## N 結 び

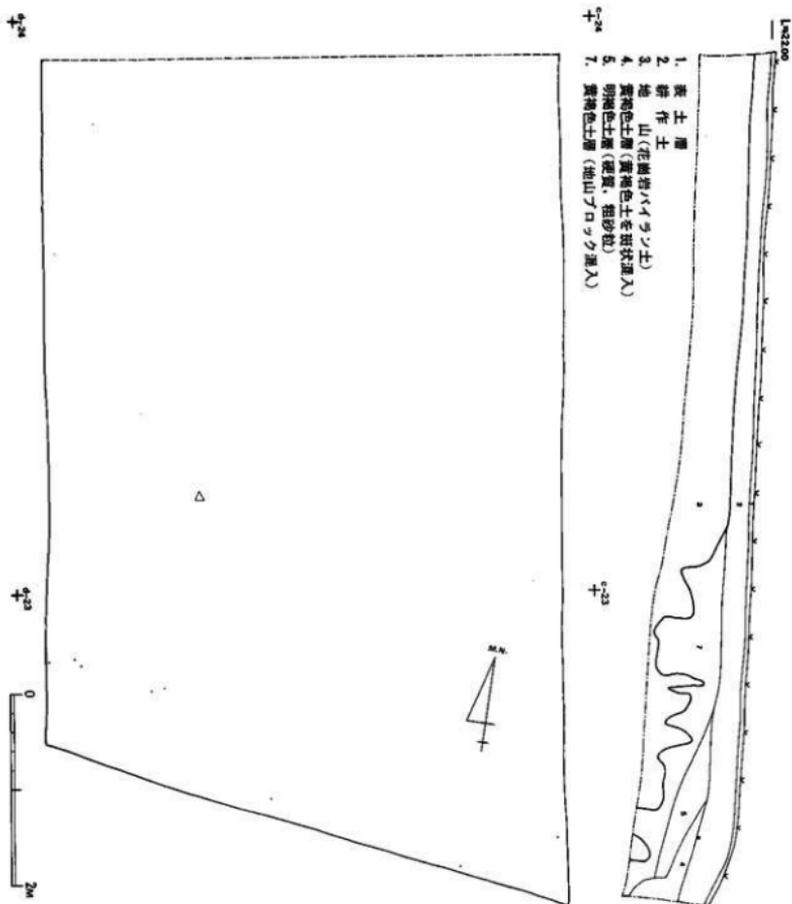
今回の調査対象となった地域は、予備調査の状況からもある程度判断されたように、既に地山直上付辺まで耕作に伴う攪乱が及び、遺物の出土はきわめて希薄であった。しかし、散在的にはあるがナイフ形石器・削器・石鏃などが検出されたことは成果であったと言えよう。

出土遺物中に於ていくつかの特徴が見られる点を列挙する。ナイフ形石器については、(1)ごくわずかな底面を有する、(2)横長剥片を素材とする、(3)背部加工が先端部まで及び、(4)断面が純い台形状を呈する。また、削器の項目で取り上げたが石錐の可能性も具備するもの。さらに、大型の石鏃もそうであろう。

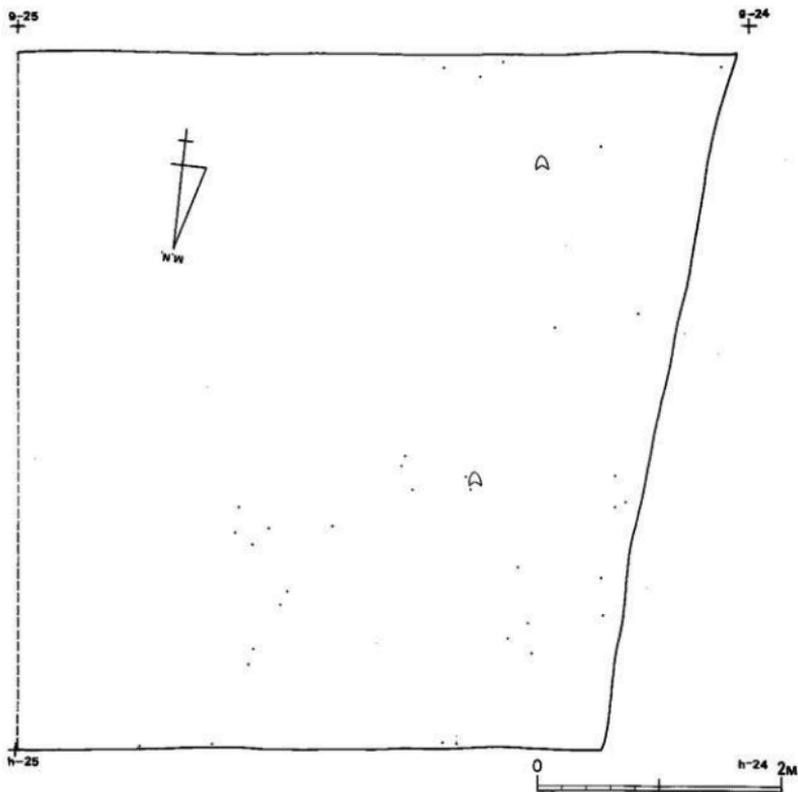
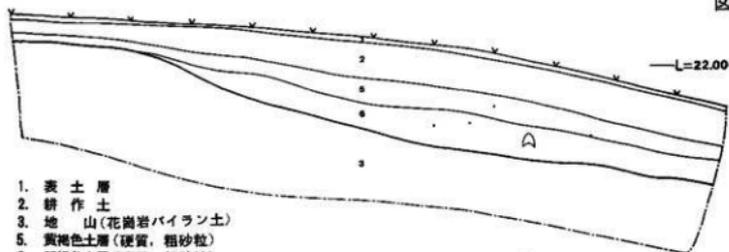
以上の状況は出土量の差異こそあるが、石器組成で、同島の花見山地区・羽佐島遺跡・与島西方遺跡の状況と類似性を認めうる。そして、それらは少ない資料の中で制約は認めるが、石器組成の平行関係が認められ、出土量の差や遺跡の立地に対して少なからずの提起をしたと確信している。(町川)

图

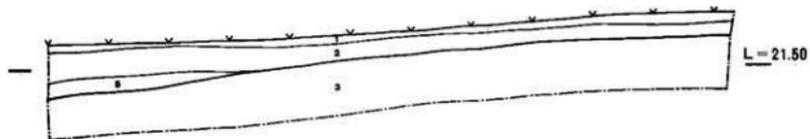
版



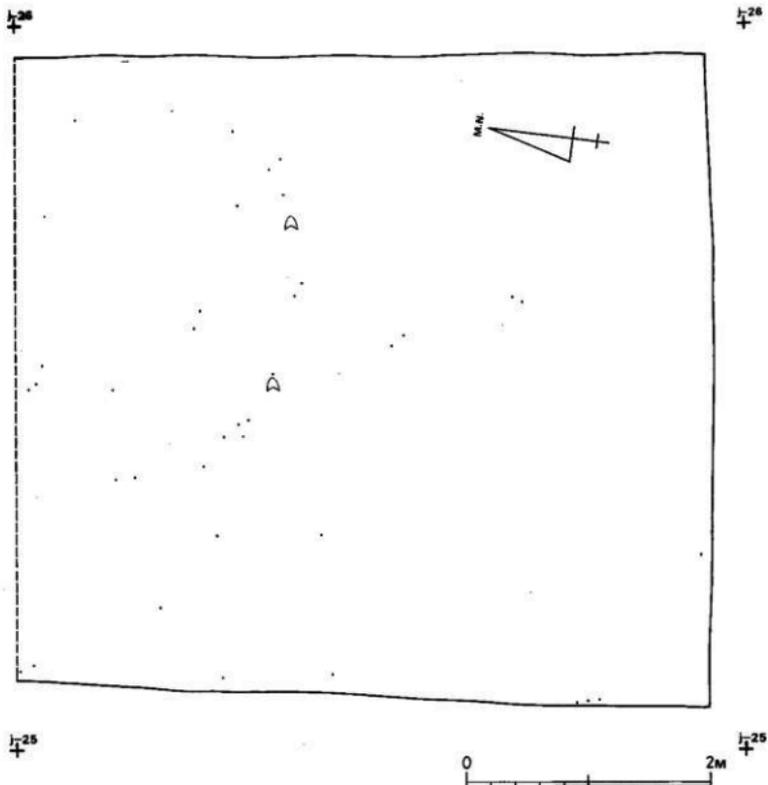
d-24(23) 区遺物出土状態図



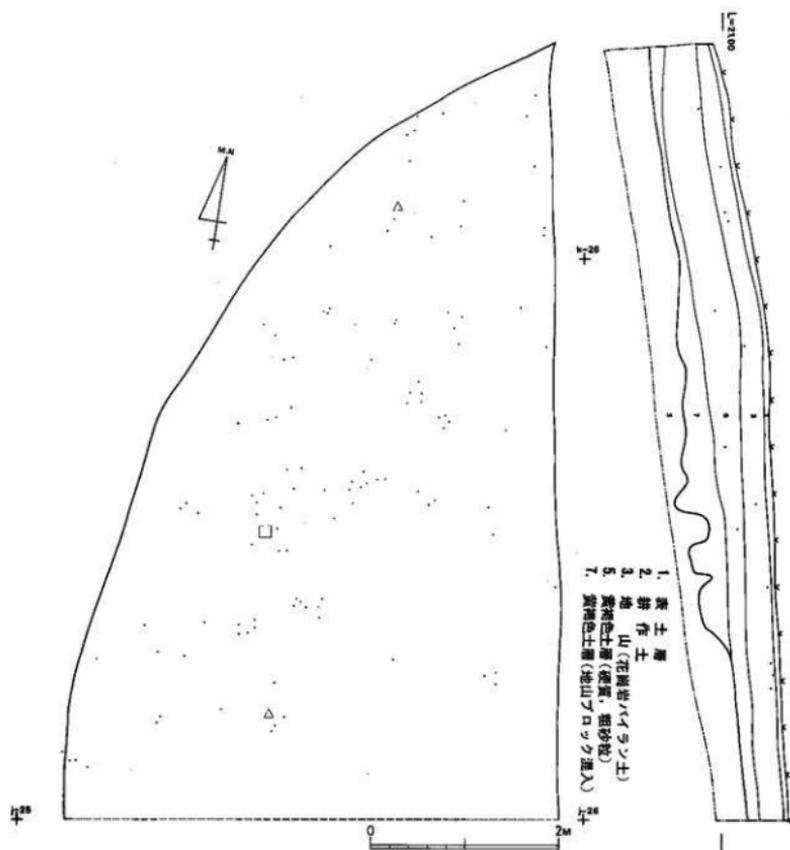
h-25 区遺物出土状態図



1. 表土層
2. 耕作土
3. 地山(花崗岩バイラン土)
5. 黄褐色土層(硬質, 粗砂粒)



j-26 区遺物出土状態図



k(1)-26 区遺物出土状態図



(1) 調査前状況  
(南より)



(2) 同上  
(北より)



(3) 発掘風景